

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤とし，知・徳・体の調和のとれた，心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成

（2）具体目標（具体的な児童像など）

仲よく

- ・よく考える子ども …… 規範意識を持ち，自ら考え，進んで学べる子ども
- ・思いやりのある子ども … 自他のよさに気づき，共に伸びようとする子ども

強く

- ・体力のある子ども …… 心身ともに健康で気力や活力に満ちた子ども

たくましく

- ・はたらく子ども …… 目標の実現に向けて粘り強く取り組める子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成」

子どもたちが心身ともに健やかに育つことを目指し，学校・保護者・地域が協働し，生き生きとした活気あふれる学校づくりに努める。そのため，人間尊重の精神を基盤とし，家庭・地域の教育力の活用を図りながら，高い指導力を備えた教師による豊かな教育活動を展開し，子どもたちの人間力を豊かに育成する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）学習指導の充実

確かな学力を身に付け，実社会や実生活の中で活用できる力を育む教育を工夫・創造する。

（2）教師力の向上（局所的学校力）

教職員として使命感や誇りを持ち，自己研鑽に励み，一人一人の細やかな目配り，気配り，心配りによる具体的な実践力の向上に努める。

（3）組織力の向上（全体的学校力）

互いに学び合い，情報と状況を共有し，心を通わせる教師集団による参画と協働を展開する学校組織の強化，充実を図る。

（4）特別支援教育の充実

一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進する。

（5）心身ともに健やかな身体の育成

健康で安全に生活できる能力を身に付け，気力や体力を育む教育活動の充実を図る。

（6）豊かな心の育成

自己有用感を高めるとともに，思いやりの心をもち，自他の生命を尊重する豊かな心を育む。

（7）人間力の育成

社会的自立の基礎を培い，社会の変化に対応しながら力強く生きぬく実践力・行動力を育成する。

※人間力：社会を構成し運営するとともに，自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力

（8）信頼される開かれた学校づくりの推進

子どもは地域の中で育むという視点を持ち，学校，家庭，地域との連携，協働を図りながら信頼される開かれた学校づくりを推進する。

（9）危機管理・環境整備の充実

子どもが安心して安全に過ごせる環境づくりに努めるとともに，落ち着いて生活できる潤いのある環境の整備を推進する。

[若松原地域学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの9年間の学校教育を，「かわる教職員の思いと責任を共有し連携をして，児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導をして」継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】
「居がいい、やりがいのある学校」
－ 子どもが生き生きと学習・活動する、明るく、楽しい、活気に満ちた学校 －
【学 習 指 導】
「学びがいを感じさせる授業を作る」
－ 学級活動で協働する力とやさしい人間性を育む －
【児 童 生 徒 指 導】
○「互いのよさを認め、豊かな人間関係を築くことのできる児童の育成」
－ あいさつ運動、読書活動の推進を基盤として －
【健康（保健安全・食育）・体力】
「自らの健康・体力に関心を持ち、進んで体力の向上に励む児童の育成」
－ 体育授業を柱とした運動習慣の形成・休み時間の外遊び推奨の取り組み －

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
教 育 全 体 の 状 況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答90%以上	①○相手を思いやる気持ちを育てる取組の推進のため、中学生と一緒に年間を通してあいさつ運動をする。 ②いじめゼロ強調月間には、児童会の「いじめゼロ集会」を実施するとともに、兄弟学年での年間を通したなかよし畑活動や、縦割り班でのエンカウンターを活用した異学年交流などにより、相手を思いやる気持ちを育てる取組を推進する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は91.6%で、数値指標を上回った。あいさつ運動は、計画委員会を中心に、クラス単位で実施した。また、中学生が月1回あいさつ運動に参加し交流を図った。いじめゼロ強調月間では、委員会を中心に、いじめゼロ集会を企画運営し、全校生が仲間であることを実感できる活動を行った。 【次年度の方針】 いじめの早期発見、早期解決のため、教育相談に合わせて年2回、学校生活アンケートを継続して実施する。相手を思いやる気持ちを育てる取組の推進のため、中学生と一緒に年間を通してあいさつ運動をする。また、いじめゼロ強調月間には、兄弟学年でのなかよし畑活動や、縦割り班でのエンカウンターを活用した異学年交流を行うなど、全校活動を通して、相手を思いやる気持ちを育てる取組を推進する。 更に、様々な学校行事や教育活動を通して、高学年がリーダーシップを発揮し、児童の主体的な活動が図れるよう努める。

学校運営の状況	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】① 全体アンケート「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 【数値指標】② 全体アンケート「教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①朝の学習の時間には、国語や算数を中心に、プリントやドリルを活用することで、基礎基本の定着に全校体制で取り組む。 ②児童理解を深めるため、年2回、6月と11月に教育相談週間を設定し、豊かな人間関係の醸成に努める。	【達成状況】 ① 児童の肯定的回答は98.6%で、数値指標を達成した。6月と12月に実施した教育相談には、Q-Uアンケート（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の結果など十分活用することができた。 ② 保護者の肯定的回答は89.3%で、数値指標を達成した。共通理解をもとに、児童の学校での様子を伝えるときには、よいところを伝えるよう努めた。 【次年度の方針】 児童理解を深めるため、6月と11月に教育相談週間を設定する。朝の学習の時間には、国語や算数を中心に、プリントやドリルを計画的に活用したり、繰り返し学習の効果的な実施方法等について、職員間で共通理解を図ったりしながら学習時間を確保し全校体制で取り組むことで、基礎・基本の定着を図る。
	A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①児童の実態をもとに、生活目標にきまりとマナーに関する目標を設定し、全職員が毅然とした態度で、できるまで徹底して指導し、習慣づけていく。 ②児童が帰りの会等を活用して自分の生活の様子をふり返りをし、きまりについて意識できるようにしたり、宮っ子心の教育表彰を生かして児童の良いところを認める機会を増やしたりする。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 79.9%で数値指標を0.1ポイント下回ったが、教職員、保護者はともに9割以上の肯定的回答を得ている。本校の「生活のきまり」に対する意識の向上が見られた。 【次年度の方針】 教職員できまりやマナーに関する目標を洗い出して精選し、週生活目標に設定し重点化を図る。朝の会や帰りの会を活用して週生活目標の確認やふり返りを行う。また「新田小の生活のきまり」を確認し共通理解を図り、全職員同一歩調で指導を進めるとともに学期末にふり返りを行うことでさらに意識付けを図る。また宮っ子心の教育表彰を活用し、よいところを認め伸ばす機会を増やしていく。
	A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	①きめ細かな指導の充実のため、児童の実態や授業内容に合わせてT・Tや習熟度別学習を実施する等、多くの学年・教科で指導形態の工夫を図る。 ②学力向上を図るため、学業指導の徹底と学級活動等での授業研究等を行い、指導の工夫改善に取り組む。	【達成状況】 児童の肯定回答は 97.6%で、数値指標を達成した。T・Tや習熟度別学習では、児童の学習意欲を喚起し、一人一人の習熟に応じた細かな指導を行った。教材や教具の工夫を行うことができた。また、学級活動の話し合いの仕方を生かし、他教科の授業に活用することができた。 【次年度の方針】 朝の学習の時間の充実を図り、一人一人の習熟を深め、具体的に支援をしていく。

A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①委員会等による「いじめゼロ集会」の実施や「親子いじめゼロ標語」の作成、「いじめゼロシール」などによりいじめ根絶への意識の高揚を図る。 ②5, 10, 1月に実施する「学校生活アンケート」や6, 11月に実施する教育相談並びにQ-Uの結果等を活用し、児童の変化を見逃さず、いじめの早期発見、早期解決に努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 98.3%で数値指標を上回った。「いじめゼロ集会」では、いじめにつながる場面を見て、悪い行為や望ましい行動を考えることでいじめゼロの意識を高めることができた。学校生活アンケートを年3回から年4回に増やしたり、教育相談週間を長めに設定したりして、児童の話聞く機会を増やし、問題の早期発見に努めることができた。 【次年度の方針】 いじめがいけないことをあらゆる機会を活用して考えさせたり、いじめゼロ強調月間やいじめゼロ集会を通して、いじめ根絶への意識向上を図ったりする。いじめの可能性を認識した時点でいじめ等対策委員会を開いて対応するなど、全教職員でいじめ解決に取り組んでいく。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケート「学校の日課、授業、行事などの教育課程は、適切に実施されている」 ⇒保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上	協調性や思いやり、勤労意欲などを養うため、農園活動、清掃活動、福祉活動、縦割班活動などの体験活動を積極的に推進する。 水曜日のロング昼休みの時間を利用して、学級活動の充実を図る。	B 【達成状況】 保護者・地域住民の肯定的回答はそれぞれ 98.1%・100%で、数値指標を達成した。上級生、下級生がそれぞれに協力し合う活動を通して、高学年としての自覚が生まれたり年長者を尊ぼうとする意識が生まれたりした。また、お互いに思いやり、協力しようとする心情が育った。 水曜日のロング昼休みの時間を利用して学級活動の充実を図った。 【次年度の方針】 感謝の心、協調性や思いやりや勤労意欲などを養うため、引き続き農園活動、清掃活動、福祉活動、縦割り班活動などの体験活動を実施する。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	授業参観やオープンスクールを実施するとともに、「学校だより」「学校ホームページ」により情報を発信する。	B 【達成状況】 保護者の肯定回答は96.7%で、大幅に数値指標を達成した。ホームページで、学校だよりや学年だよりなどを定期的に内容を更新し、積極的に情報を発信した。 【次年度の方針】 本年度と同様に授業参観、オープンスクールを年4回、月に1度保護者と関わる行事等を実施し、情報を発信する。

A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】① 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 【数値指標】② 全体アンケート「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①授業参観などの学校行事やPTA活動など教育活動に積極的に参加できるよう、各種便りや連絡帳等を活用して情報を発信する。 ②地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。 更に活動の内容を「ボランティアコーナー」として紹介し、活動への理解を深める。	【達成状況】 ① 保護者の肯定回答は91.5%で、数値指標を達成した。各種たよりで保護者や地域の方への参加を促した。また、学校の様子などをホームページでも公開した。 ② 職員の肯定回答は100%で、数値指標を達成した。読書ボランティアや水泳ボランティア、農園ボランティアなど、各種の学校支援ボランティアを中心に地域人材を活用して教育効果を上げることができた。地域協議会やPTAと連携し、児童の安全面の確保や学習面の充実が図れた。 ③ 【次年度の方針】 授業参観などの学校行事やPTA活動など教育活動に積極的に参加できるよう各種たよりや連絡帳等で情報を発信する。 地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。更に、活動内容を「ボランティアコーナー」として紹介し、活動への理解を深める。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、荷物や備品などが整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	①落ち着いた学校生活を送るために校内環境の在り方について、児童の視点から検討し、学校環境の整備・充実を図る。 ②児童が自主的に環境の美化活動に取り組む態度が育つよう、清掃や整理・整頓について学級活動などの時間に話し合ったり、模範的な活動を称賛したりして、環境美化に努める。また、靴箱や机、ロッカーの整理の仕方を具体的に示し、身近なところからきれいにしたり、物を大切にしたりしようとする態度を育てる。	【達成状況】 保護者の肯定回答は 92.0%で、数値指標を達成した。児童の主体性を生かした掲示物や、背面黒板の活用を行い、子供の顔の見える環境づくりに取り組んだ。また、掲示物を掲示し、望ましい環境づくりになるよう繰り返し指導した。 【次年度の方針】 児童の机やいすの高さを調節し、学習しやすい環境づくりに努める。
B 1 教職員は学校の研究課題に関する研究に積極的に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「学校は、教職員が互いに指導力向上に取り組み、指導の工夫・改善に努めている」 ⇒保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上	①授業の中に様々な学び合いの場を意図的に設定し、個と集団の学びを深め合える学習の実践に努めるとともにその課題に関する研修に努める。 ②保護者や地域住民へ授業参観や学年だより、学校だより等で児童の学びの様子を知らせ、理解を得られるよう努める。	【達成状況】 保護者の肯定回答は 85.6%、地域住民の肯定回答は 100%で、数値指標を達成した。研究の成果を生かして、授業改善を行うことができた。また、学校だよりで、取り組みの一端を紹介できた。 【次年度の方針】 学年だよりで、学級活動の様子を伝え、研究の様子を理解してもらえるようにする。

教育活動の状況	生 活	A10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	①全学級ローテーションのあいさつ運動や、若松原地域学校園として小中で協力してのあいさつ運動を継続・充実する。また、あいさつ運動で使用したのぼりを廊下に置いて、あいさつに対する意識向上を図る。 ②あいさつ名人の認定をしたり、児童会の計画委員会を主体とした「あいさつ広め隊」の活動を活性化させたりする。	【達成状況】 児童の肯定的回答は89.5%で数値指標を上回った。全学級によるあいさつ運動や地域学校園でのあいさつ運動の取組、計画委員会による「あいさつ広め隊」による声掛けやあいさつマークの作成、あいさつ名人カードの配付により、あいさつへの意識が高まってきた。 【次年度の方針】 児童の肯定的回答は指標を上回ったが、保護者、地域住民は80%を下回った。あいさつ広め隊によるあいさつ名人の認定を増やしたり、あいさつ運動の幟を昇降口や校門付近に設置したり各校門付近でのあいさつ運動を展開したりして、校舎内外で積極的にあいさつができるようにしていくとともに、あいさつマークをもっと広めるために、各種たより等に積極的に掲載していく。
		A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、大人に対して適切な言葉づかいや返事をしている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上	①国語科や会話科の学習を中心に、発達段階に応じた具体的な言葉の使い方を指導する。生活目標にも言葉遣いについての目標を取り上げ、正しい言葉遣いへの意識付けを図る。 ②学校生活において友達同士での言葉の使い方、敬称を付けた友達の呼び方、教師や大人に対する敬語の使い方ができるよう常時指導をするとともに、各家庭にも懇談会等を通して協力を呼びかける。	【達成状況】 児童の肯定的回答78.3%、保護者の肯定的回答70.7%といずれも数値指標を下回った。しかしながら、昨年度よりも児童は3.6ポイント、保護者は3.0ポイントと上回り、上昇傾向にある。生活目標に言葉づかいについての目標を意識的に取り入れたり、学級活動や会話科等での指導が充実させたりしてきたためと考える。 【次年度の方針】 各教科等の学習においてそれぞれの場面に合った言葉の使い方の指導やスキルトレーニングをしていく。また、気持ちのよい言葉や心に刺さる言葉などを、各クラスで集めて校内に掲示することで、正しい言葉について知り、言葉遣いを考える機会とできるようにする。また懇談会等を通じて保護者にも協力を働きかける。
	健康・体力	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	「すくすくカレンダー」の活用について家庭への周知を図るとともに、本校独自の「プチトレ」「家トレ」の奨励を継続して行う。また、若松原地域学校園で統一した検定表などを活用することで、児童の運動習慣がスムーズに中学校での取組に繋がるよう支援していく。そのためにジャンピングボード・一輪車・投てき板など、児童が進んで運動に利用できる器具の整備もしていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答は90.8%で、数値指標を達成した。教職員の肯定的回答も高い割合を得られた。水曜日のロング昼休みや金曜日の外遊びデーの設定により、児童の運動への意識が高まった。しかし、運動についての意欲や技能の2極化は今後も課題として残った。 【次年度の方針】 体育部や運動委員会を中心に、休み時間における「体力づくり」を行い、児童の運動への意欲を高めたい。また、新体力テストの結果をふまえて、本校児童の体力面の課題に焦点をあてた体育授業の提案や「プチトレ」の改善を図りたい。

	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「自分の子どもは、好き嫌いなく食事をしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	「お弁当の日」や「校内給食週間」、若松地域学校園統一の「食育ファイル」等で家庭との連携を推進する。 食や健康の保持増進に関する授業を養護教諭や栄養教諭と協力して継続・実施していく。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 73.1%で、数値指標を下回った。児童の肯定的回答は昨年度とほぼ同様の 82.4%だった。保護者の肯定的回答の割合が低いことが、昨年度同様課題である。 【次年度の方針】 「お弁当の日」、「校内給食週間」等の行事に児童・教職員ともに積極的に参加している。今年度と同様に給食の時間の栄養教諭による食育指導や授業でのＴＴなどを来年度も積極的に取り入れていく。また、食育だよりや学校ホームページなどを活用し、食への理解を深めたい。
	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	学習活動で、主体的に問題解決に取り組む、協働して学び合う場を取り入れることで、児童の学ぶ姿勢が個と集団の成就感につながるようにしていく。	B	【達成状況】 児童の肯定回答は 91.4%で、数値指標を達成した。課題解決のためにグループで話し合う場面を取り入れることにより、主体的に意見を述べる様子が見られた。 【次年度の方針】 学び合いの場を意識的に取り入れ、協働して学ぶ喜びを感じ取れるようにしていく。
学 習	A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①基本的な学習のきまり」について、掲示物を活用して児童への意識付けを図るとともに、学期始めや長期休業終了時には、各教室に学習態度等に関する重点目標を掲示するなどして、児童と共通認識を持ち学習に向かう環境を整える。 ②個別の支援が必要な場合は、対応を検討するための話し合いを積極的に持ち、各担当者間で連携して指導に当たる。	B	【達成状況】 保護者の肯定回答は 83.7%で数値指標を達成した。学業指導の徹底により、落ち着いて取り組めるようになってきた。また、個に応じた支援の充実を図ってきた。 【次年度の方針】 学習のきまりの中から、重点指導項目を設定し、繰り返し指導していく。また、すくすく子育てプランからトピックを取り入れ、学年だよりで伝えていく。

	B 2 望ましい人間関係のもと、互いに協力し合いながら生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、学校でだれとでも協力して生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①縦割り班によるわくわくタイムでの遊びや清掃活動、また兄弟学年での農園活動などを通して、助け合いや思いやりの心を育てる。 ②縦割り班の班長を中心に児童が主体的に活動できる機会を増やしていくことで、他の人のために役に立っているという意識(自己有用感)を高めるとともに、互いの良さを見つけ、協調して活動しようという態度を育てる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は 88.0%で数値指標を上回った。ロング昼休みを活用したクラス共遊の時間の設定や縦割り班による遊びや清掃活動、兄弟学年の農園活動などにより、同学年はもとより異学年でも活動することで、互いに協力し合う経験を多く積むことができた。 【次年度の方針】 児童会活動や異学年活動を中心に、リーダーの育成を軸にさらに児童が主体的に活動できるよう支援していく。また、道徳や学級活動において、友達のよさを感じられるような授業や活動を実践するとともに、「かがやきの木」の効果的な活用を図り、個人がみんなに認められる場を設定することで、自己有用感を高めていきたい。
本校の特色・課題等	B 3 教職員は、家庭や地域と連携を図りながら、あいさつ運動に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「教職員は、家庭や地域と連携を図りながら、あいさつ運動に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①交通指導員や登校・下校ボランティア・地域の見守り隊の方々等に感謝の気持ちを表したり、校舎内外でのあいさつの輪を広げたりする活動を継続する。 ②校内の掲示物や学校だより等でありさつに取り組む様子を地域や保護者に知らせるとともに、家庭でもあいさつをする機会を多く持つように啓発を図る。	B 【達成状況】 保護者の肯定的割合は 86.7%で、数値目標を達成した。また、児童・地域住民・教職員ともに 80%を超えている。このことから、あいさつ運動への取組が十分になされ、周知も図られていると考えられる。 【次年度の方針】 今後もあいさつ運動の様子を積極的に家庭や地域に知らせる。また、昇降口だけでなく各校門付近でもあいさつ運動を行うことで、より明るいあいさつ活動が展開できるようにする。また交通指導員や下校ボランティアなどの地域の方にもあいさつのタスキを配布してそれぞれの地域でもあいさつ運動を展開してもらえるよう働きかけをし、地域参加型のあいさつ運動を目指す。

B 4 教職員は、児童の読書意欲を向上させるための取組を推進している。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、読書や調べる勉強などで一月に10冊以上本を読んでいる」⇒児童の肯定的回答90%以上	①始業時刻前に図書館を開館し、利用時間をより多く確保するとともに、朝の読書の時間を毎日位置付け、読書の推進に努める。 ②家庭でのファミリー読書を奨励し、家庭の理解と協力を呼び掛けながら、必読図書を活用して様々なジャンルの本に親しませ、読書指導の充実を図る。 ③若松原地域学校園で連携を図って読書意欲を向上させる。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、66.3%で、数値指標を下回った。児童への聞き取りが10冊ではなく20冊であったこともあり数値指標を達成することができなかった。 教職員肯定回答は100%、保護者92.5%で数値指標の90%に達している。また、全体の図書館の貸出冊数をみると前年度に比べ伸びている。 「朝の図書館開放」「毎日の朝の読書の時間の確保」により、読書のリズムが定着してきて、教室で静かに読書している様子が見られる。読み聞かせボランティアの方々と親しむ機会が多かったことや読書週間の児童活動が充実していたことも児童の読書意欲の向上に効果的であり、本好きの児童が育っていると考えられる。 【次年度の方針】 朝の図書館を開館し利用時間をより多く確保するとともに、朝の読書の時間を充実させ、読書の推進に努める。 また、家庭でのファミリー読書を奨励し、家庭の理解と協力を呼び掛けながら、様々なジャンルに親しませ、必読図書の見直しを含めた読書指導の充実を図る。 更に若松原中学校を中心として、若松原地域学校園でも協力して読書活動の推進に努める。
B 5 教職員は、児童の人間関係力向上を目指して、縦割り班活動を推進している。 【数値指標】① 学校独自アンケート「私は縦割り班活動で多くの友達と楽しく活動している」⇒児童の肯定的回答80%以上	リーダーである6年生を中心に、各学年の役割や協力の仕方を学ぶ場として縦割り班活動を充実させる。活動の前に手をつないで輪になり、活動内容を共有する場を設けるなど、中学年や低学年の児童にも、コミュニケーション力や人間関係力の向上を目指せる場とする。	【達成状況】 児童の肯定的回答は91.4%で数値指標を十分に達成した。教職員、保護者、地域住民の回答も90%を上回った。6年生のリードのもとに、わくわくタイムや児童集会、ボランティア活動を実施することで、異学年間の交流を深め、その楽しさを味わうことができた。 【次年度の方針】 児童の人間関係力向上のために、縦割り班で仲良く遊ぶ活動のほか、ボランティア活動、大縄跳び大会など、班で協力できる活動を多く設定していく。またどの学年でも意欲的に活動できるようにするために、各班での話し合いで低、中学年の児童の意見も積極的に取り入れるようにする。

〔総合的な評価〕

各項目の肯定的回答割合は、昨年度を5～10ポイント上回っているものが数多くあり、昨年度の肯定的回答割合を5ポイント以上下回った項目は2つであった。全体として、学校運営への信頼感が増していると考える。

＜教育全体の状況について＞

- ・ 肯定的回答割合がほぼ90%を超えており、教職員の協力の下、児童が生き生きと学校生活を送っているととらえることができる。

＜学校運営の状況について＞

- ・ A3「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」の肯定的回答割合が、数値指標をわずかに0.1ポイント下回った。しかし、教職員・保護者・地域住民・児童のいずれについても、昨年度より5ポイント以上肯定的回答割合が上昇しており、児童は落ち着いて学校生活を送っているといえる。

＜教育活動の状況について＞

- ・ A11「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」A13「児童は栄養のバランスを考えて食事をしている」の2項目は肯定的回答割合が数値指標を下回った。次年度は言葉遣いと食育に関する取り組みを拡充させ、よりよい態度の育成を目指す。
- ・ A14「児童は、授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している」A15「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」B2「児童は、望ましい人間関係のもと、互いに協力し合いながら生活している」については、ほぼすべての評価対象グループにおいて、肯定的回答割合が昨年度を上回っており、児童の授業態度や積極性が向上しているといえる。

＜本校の特色・課題等について＞

- ・ 異学年交流については、いずれの評価対象グループにおいても、肯定的回答割合が90%を超えており、活動の意義が大きいと理解されている。

6 学校関係者評価

（A5 いじめ対策の情報提供について）

- ・ 保護者と学校の間に、いじめについての意識の差があるように思う。いじめの発生状況を知らせるなど、情報提供の具体的な内容を考えるとよいのではないか。

（A10 あいさつについて）

- ・ 学校では、児童が積極的にあいさつしてくれる。学校だよりなどからも「あいさつ運動」の取り組みが広がっていることが分かる。
- ・ 学校で、誰にでも挨拶をしようという指導を徹底することが大切ではないか。
- ・ 今は、不審者等の問題もあるので、あいさつをしないことを一概に礼儀知らずとは言えない状況にある。「知っている人に会ったら」「学校の中では」などの条件を付けて指導する必要もあるのではないか。
- ・ 地域で、進んであいさつをしている子どもがいたら、かがやきカード（学校で取り組んでいる、その児童の良いところを担当や保護者に伝えるカード）に記入して学校に持参するなど、地域が積極的にかわっていくことの必要である。

（A11 言葉遣いについて）

- ・ 子どもたちが集団で遊んでいるときの言葉遣いは、気になる。家庭でのしつけが重要ではないか。
- ・ 身近な大人が、普段から周りの人を尊重した話し方ができるとよい。

（A12 放課後の運動について）

- ・ 公園などの遊具で遊ぶ子どもが少ない。学校でも、遊具を積極的に活用して遊ぶような声掛けを行うと、子どもの目がそちらに向くのではないか。
- ・ ゲームに時間を費やす児童が多いようだ。家庭でのルールづくり等が必要であると思う。
- ・ 不審者が出没することなどを受け、大人の目がない公園で、子どもだけで遊ぶのは怖いという感覚があるようだ。自宅の敷地内でもできる縄跳びや筋トレを勧めるに当たり、学校で作成している検定表の活用は有効であると思う。

（A13 食習慣について）

- ・ 日頃から、家庭でも、いろいろな食材に親しむ機会が設けられるとよい。

（その他）

- ・ 「運動会」や「感謝の会」などを参観すると、児童と先生方との一体感が感じられる。
- ・ 各クラス表示に「〇〇学級」の札が添えられ、クラス担任が分かりやすくなった。
- ・ 廊下に「感謝の木」など、子どもたちのメッセージや写真が掲示され、学校全体が優しい色に包まれている感じがする。学校全体がよりよくなっていると思う。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校マネジメントアンケートの結果を見ると、肯定的回答率が上昇している項目が増えていることから、学校運営全般にわたって、児童・保護者・地域住民からの信頼を得られていると考える。しかし、その中で、「きまりやマナー」「あいさつ」「言葉遣い」「運動」「食習慣」が課題として挙げられた。これらについて、次年度に向け、以下のような方針で児童の育成に当たっていく。

- 「きまりやマナー」については、定着が不十分なところを明確にし、全教職員が共通の指導感を持って、指導に当たっていく。
- 「あいさつ」については、児童の不審者に対する不安を低減するために、「知っている人」「学校への来校者」等具体的な対象を示しながら、進んであいさつする態度を育成していく。地域におけるあいさつについては、地域の方の教育力を取り込み、児童の良さを積極的に学校に伝えていただくようにする。
- 「言葉遣い」については、学校を離れた場所での影響も大きいことから、学校・家庭・地域それぞれの目線で繰り返し児童に指導していく。
- 「運動」については、学校において、積極的に遊具を使った運動遊びを行うような活動を工夫したり、運動の大切さを発信していくような取り組みを行う。
- 「食習慣」については、家庭の協力を得てお弁当の日やおにぎりの日を推進し、栄養バランスの良い食生活についての関心を高めていく。